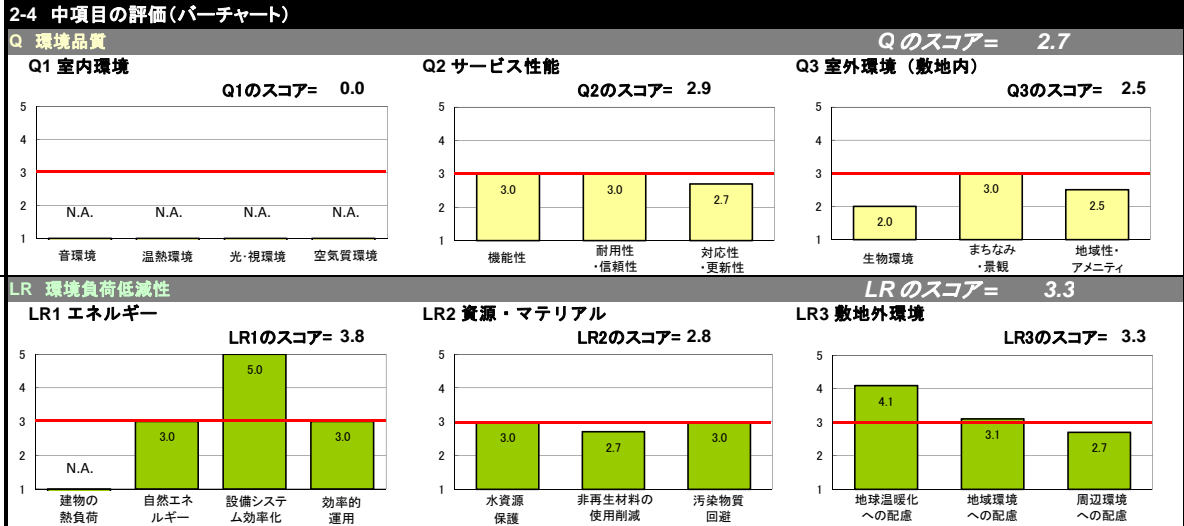
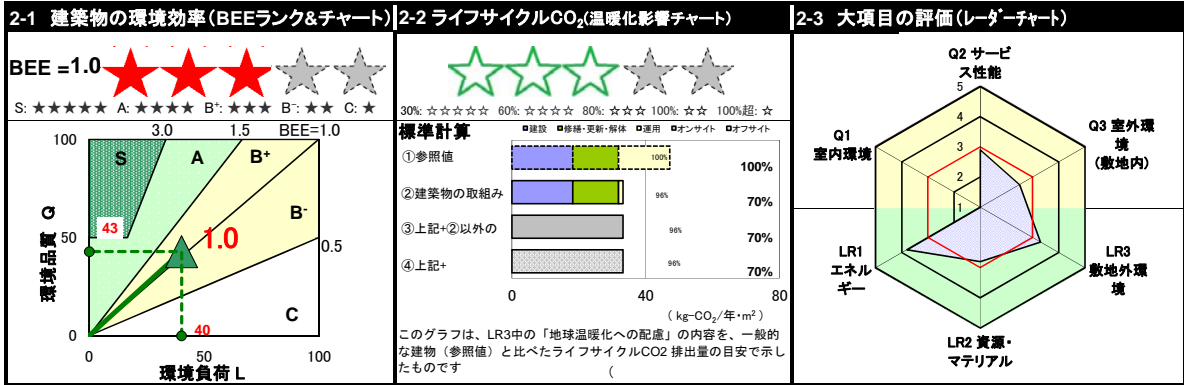


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	スズケン名南物流センター(立体駐車)	階数	地上4F
建設地	愛知県大府市共和町 炭焼1-45、1-	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2014年10月15日
敷地面積	8,210.91 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社北川鉄工所 杉島昭弘
建築面積	1,652.23 m <sup>2</sup>	確認日	2014年10月15日
延床面積	6,548.79 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社北川鉄工所 杉島昭弘



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>20.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
<b>1.1 騒音</b>								
1 室内騒音レベル				-	-	3.0	-	-
2 設備騒音対策				-	-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>								
1 開口部遮音性能				-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	-
<b>1.3 吸音</b>								
3.0				-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>								
<b>2.1 室温制御</b>								
1 室温				-	-	3.0	-	-
2 負荷変動・追従制御性				-	-	3.0	-	-
3 外皮性能				-	-	3.0	-	-
4 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	-
6 個別制御				-	-	-	-	-
7 稼働状況に応じた制御				-	-	-	-	-
8 監視システム				-	-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>								
3.0				-	-	3.0	-	-
<b>2.3 空調方式</b>								
3.0				-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>								
<b>3.1 昼光利用</b>								
1 昼光率				-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備				-	-	3.0	-	-
<b>3.2 グレア対策</b>								
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	-
2 昼光制御				-	-	3.0	-	-
3 視覚的対策				-	-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>								
3.0				-	-	3.0	-	-
<b>3.4 照明制御</b>								
3.0				-	-	3.0	-	-
<b>4 空気環境</b>								
<b>4.1 発生源対策</b>								
1 化学汚染物質				-	-	3.0	-	-
2 化学汚染物質対策				-	-	-	-	-
3 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4 化学汚染物質対策				-	-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>								
1 換気量				-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	-	-
4 換気計画				-	-	-	-	-
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43			<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>				3.0	0.40			3.0
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				3.0	1.00			
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
1 広さ感・景観				-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
<b>1.3 維持管理</b>								
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
3 維持管理業務				-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				3.0	0.31			3.0
<b>2.1 耐震・免震</b>				3.0	0.48			
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				3.0	0.33			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.27	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.27	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.18	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.27	-	-	-

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1 空調・換気設備				-	-			
2 給排水・衛生設備				-	-			
3 電気設備		②		3.0	1.00			
4 機械・配管支持方法				-	-			
5 通信・情報設備				-	-			
3 対応性・更新性				2.7	0.29			2.7
3.1 空間のゆとり				2.2	0.31			
1 階高のゆとり				1.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			167(壁長さ)/1652.23(建築面積)=0.101>0.1	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				-	-			
2 給排水管の更新性				3.0	0.33			
3 電気配線の更新性				3.0	0.22			
4 通信配線の更新性				-	-			
5 設備機器の更新性				-	-			
6 バックアップスペース				3.0	0.44			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.5
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.8
1 建物の熱負荷抑制								-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			照明設備についてタイマー制御・自動点滅制御を採用	5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			2.8
1 水資源保護				3.0	0.15			3.0
1.1 節水				-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体は鉄骨、仕上材は鋼板、取付けをボルトで行う為、容易に分	4.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00			
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			
3 冷媒				-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率67%	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		駐輪場の整備、車・トラックの動線分離	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				1.9	0.40			
1 風害の抑制				1.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制			日影規制は余裕をもってクリア	4.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			光害対策ガイドライン 光源は総合効率の高いものを採用 広告照	4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

スズケン名南物流センター(立体駐車場)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.7\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 スズケン名南物流センター

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 国土交通大臣認定品を採用し、構造部材の低減、消火設備の簡略化を図っている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特に無し。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建築基準法に定められた安全性を確保している。壁長さ比率を低くし、空間のゆとりを持たせている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 植栽帯(緑化率20%)を設けている。空地率60%以上。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 照明設備についてタイマー制御・自動点滅制御を採用している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体は鉄骨、仕上材は鋼板、取付けをボルトで行う為、容易に分別可能としている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐輪場、駐車場が必要台数分確保されている。近隣に対し日影、広告照明等の影響が小さい。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。